

Ⅲ 次世代産業創造プロジェクト

次世代産業創造プロジェクトの取り組みの概要

■ ヘルスケアイノベーションプロジェクト

① 第5期計画の取り組み

産学官金が連携して、デジタル技術などを活用したヘルステック分野の新製品やサービスの事業化を支援することで、当分野への県内企業の進出や県外企業の誘致を促し、関連産業の育成とイノベーションの創出を図る「ヘルスケアイノベーションプロジェクト」を進めています。

令和6年度は、民間団体と連携した伴走支援体制の構築や実証実験への補助を通じて、県外企業の県内への拠点の設置を促してまいります。

■ アニメプロジェクト

① 第5期計画の取り組み

産学官金が連携して、本県にアニメ関連企業やアニメクリエイターを呼び込むことでアニメ産業を集積し、雇用の創出や地域活性化を図る「アニメプロジェクト」を進めています。

令和6年度は、県内の専門学校が実施する教育プログラムへの支援制度の新設や、アニメ制作企業の誘致に特化した補助制度の創設などにより、アニメ関連の人材育成や企業誘致に取り組んでまいります。

■ グリーンLPガスプロジェクト

① 第5期計画の取り組み

日本全体の4割強（5,000万人）の家庭で利用されているLPガスは、現在100%化石燃料から生産されており、カーボンニュートラルの実現に向けては、グリーン化（森林資源や海藻などのバイオマスから生産すること）が期待されています。豊富なバイオマス資源を持つ本県ならではの取り組みとして、グリーンLPガスの地産地消モデルの実現に向けたプロジェクトを立ち上げ、早期の社会実装を目指した取り組みを進めています。

令和6年度は、県内のバイオマス資源に関する調査や実施事業者の掘り起こし、県内企業における分業・生産体制の検討・構築などにより、令和10年度から予定されている実証実験の支援体制の構築に取り組んでまいります。

No.	目標	出発点	直近値	4年後 目標 (R9)	これまでの取り組みと成果	課題	取り組み内容 (R6～R9)
1	プロジェクト支援県外企業の 県内への拠点の設置件数 【モニタリング方法】 ・支援対象県外企業に対し、 メール・電話により随時確認	0件 (R4)	1件 (R5.12 末)	10件 (R9)	<p>1 伴走支援 ・R4に相談のあった企業等からのプロジェクト支援申請があり、プロジェクト支援案件数が増加。支援内容も専門性の高いものになっている ⇒ プロジェクト支援案件: 0件(R4)→4件(R5.12末時点) 相談件数: 12件(R4) →25件(R5.12末時点累計)</p> <p>2 財政支援 ・プロジェクト支援案件を対象に補助金申請を受け付け、審査会等を経て採択。県内自治体を実証フィールドにした実証実験の件数が増加した ⇒ 補助金採択件数: 2件(R5、申請3件)</p> <p>3 交流・マッチングの場づくり ・ガバメントピッチ 県内自治体が、企業等と共に解決に向けて取り組みたいヘルスケア分野の課題やニーズを発表し、これらの課題・ニーズに応える企業からの提案を募集し、マッチングを実施 ⇒ マッチング件数: 2件(R5.12末時点)</p> <p>・ミートアップイベント 全国の企業へのプロジェクトの周知や支援対象企業の掘り起こしを目的にベンチャー企業等を対象とする交流会を開催 ⇒ 参加者数: 41名(R5) (会場29名、オンライン12名) 事後相談件数: 6件(R5.12末時点)</p>	<p>1 伴走支援 ・プロジェクト支援案件をスピード感を持って、着実にビジネスにつなげるためには専門家等による伴走支援体制の構築が急務</p> <p>2 財政支援 ・県外企業の本県への拠点設置を加速化するためには、企業が実証実験に取り組みやすい環境をしっかりと整備し、県外企業を本県に誘導することが必要</p> <p>3 交流・マッチングの場づくり ・参加自治体のさらなる掘り起こしと、企業からの連携ニーズが高い医療機関等も含めた交流の仕組みづくりが必要</p>	<p>1 伴走支援 ・プロジェクトに相談のあった案件を着実にビジネスにつなげるとともに、県外企業の本県への拠点設置を加速化するため、伴走支援を強化し、外部団体に委託【R6～R9】</p> <p>2 財政支援 ・県内外の企業と県内市町村・医療機関や県内外の高等教育機関等が連携して実施するデジタル技術等を活用したヘルスケア分野の新製品や新サービスの事業化のための実証実験に係る費用の一部を補助(民間企業の連携先として県内医療機関を追加)【R6～R9】</p> <p>3 交流・マッチングの場づくり ・企業と県内自治体・医療機関等が、それぞれの持つ技術ノウハウとヘルスケア分野の課題やニーズを共有し、これを解決する新たなビジネス構築につなげるための交流・マッチングの場づくりを実施【R6～R7】</p>

目的

産学官金が連携して、デジタル技術等を活用したヘルステック分野の新製品やサービスの事業化を支援することで、当分野への県内企業の進出や県外企業の誘致を促し、関連産業の育成とイノベーションの創出を図る。

※ヘルステック：医療や健康維持・増進分野と最新テクノロジーを組み合わせたシステムやサービス

現状・課題

KPI検証

①相談件数

	R4(出発点)	R5
目標	10	15
実績	12	19

1. 伴走支援

【現状】 R4に相談のあった企業等からのプロジェクト支援申請があり、プロジェクト支援案件数が増加。支援内容も専門性の高いものになっている。
◆プロジェクト支援案件：0件（R4）→6件（R5）

課題1

プロジェクト支援案件をスピード感を持って、着実にビジネスにつなげるためには専門家による伴走支援体制の構築が急務である。

2. 実証実験の支援

【現状】 県内自治体と企業による実証実験の増加
◆補助金採択件数：2件（R5）

課題2

県外企業の本県への拠点設置を加速化するためには、県内自治体と企業とがともに実証実験に取り組みやすい環境をしっかりと整備し、県外企業を本県に誘導する必要がある。

5期計画（令和9年度）の目指す姿

目標値

支援対象県外企業の県内への拠点の設置件数
出発点（R4）0件 ⇒ 4年後（R9）10件

1 中山間地域の産業の創出

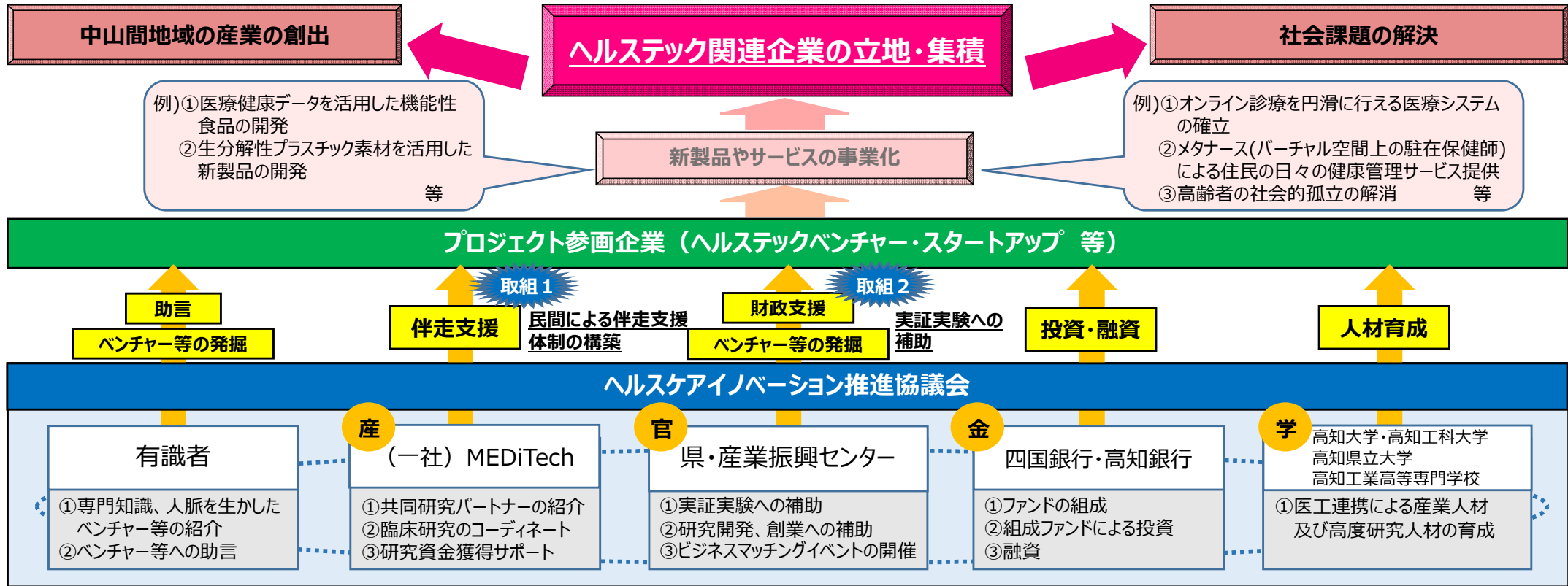
- (1) 大学発ベンチャーの創業や学生による起業
- (2) 県内企業のヘルステック産業への参入
- (3) 県外企業の県内への拠点設置 等
⇒若者の県内定着、UIターンの促進

2 社会課題の解決

- (1) 地域が抱える健康医療課題の解決

令和6年度の取り組み

ヘルステック分野の新たな製品やサービスの事業化に向けた支援を強化



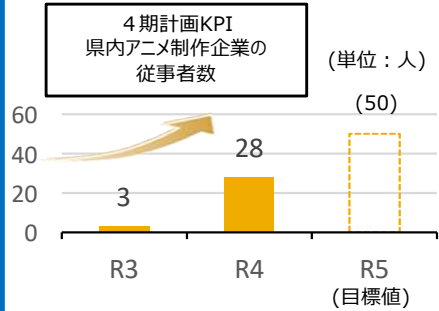
145

No.	目標	出発点	直近値	4年後 目標 (R9)	これまでの取り組みと成果	課題	取り組み内容 (R6～R9)
1	県内におけるアニメ制作企業 従事者数 【モニタリング方法】 ・対象企業に対し、メール・電話により随時確認	28人 (R4)	28人 (R4)	120人 (R9)	<p>1 人材育成 【中長期的な人材供給】 ・県内の若者に、アニメクリエイターの仕事内容や魅力を伝え、将来の仕事として興味喚起を行う講演会やアニメ制作体験講座を開催 ⇒ アニメクリエイター講演会:73人(R5) アニメ制作体験講座:26人(R5)</p> <p>【即戦力の養成】 ・アニメクリエイターに必要な専門スキルの習得を目的として、高知デジタルカレッジでデジタルクリエイター育成講座(アニメーター講座)を開催 ⇒ R4:17人、R5:7人</p> <p>2 企業誘致 ・問合せ案件に対する相談対応 ・HPやパンフレット等を活用したアニメ制作企業に対する本県の魅力や支援制度の情報発信、フォローアップ ・高知県IT・コンテンツ企業立地促進事業費補助金による立地支援 ⇒ アニメーション関連企業立地件数:3件(R4)</p> <p>3 アニメツーリズムの促進 (新規案件) ・問合せ案件に対する相談対応 ⇒ アニメーション映画に関するロケ支援実施:0件(R4)</p> <p>(既アニメ化案件) ・「竜とそばかすの姫」DVD販売(R4) ・細田守監督劇場公開1周年来高に合わせたプロモーション(R4) ・「竜とそばかすの姫」地上波放送(R4) ⇒ アニメツーリズム協会が選ぶ「訪れてみたいアニメの聖地88 2023年度版」に越知町が選出され、注目を継続(R5)(2022年度版に引き続き2年連続)</p>	<p>1 人材育成 ・企業の立地先選定において、現地での優秀な人材の確保は重要なポイントだが、現状県内にはアニメクリエイターに必要な専門スキルを身に付けられる専門学校がないため、専門スキルを習得できる環境の整備が必要</p> <p>2 企業誘致 ・アニメ産業の集積にむけて、アニメ制作企業の誘致に向けた立地支援の強化が必要</p> <p>3 アニメツーリズムの促進 ・高知を舞台にしたアニメーション作品のさらなる誘致が必要</p>	<p>1 人材育成 【中長期的な人材供給】 ・県内の若者に、アニメクリエイターの仕事内容や魅力を伝え、将来の仕事として興味喚起を行う講演会やアニメ制作体験講座を開催【R6～R9】</p> <p>【即戦力の養成】 ・アニメクリエイターに必要な専門スキルの習得を目的として、県内の専門学校が実施する教育プログラムへの支援制度を創設【R6～R7】</p> <p>2 企業誘致 ・HPやパンフレット等を活用したアニメ制作企業に対する本県の魅力や支援制度の情報発信、フォローアップ【R6～R9】 ・既存のIT・コンテンツ企業に対する補助制度を刷新し、アニメ制作企業の誘致に特化した補助制度を創設【R6～R9】</p> <p>3 アニメツーリズムの促進 ・本県を舞台とするアニメーション映画の実現につなげるため、ロケ支援の要請に対応【R6～R9】</p>

目的

アニメクリエイターやアニメ関連企業を呼び込むことで、県内に**アニメ産業を集積**し、**雇用創出や地域産業活性化**につなげる
 ⇒ 将来的には、県内に集積したアニメ関連企業によるアニメ作品等の制作により、**高知県産アニメーションを世界へ発信**

現状・課題



- ・R3年度からR4年度にかけて約9.3倍に増加
- ・20代の若者や女性の従事者が大半
- ・離職者が少ない

1 推進体制

産学官金で構成する推進会議を設置し、プロジェクトの方針等を協議(R4～)

2 人材育成

アニメ制作の仕事に対する興味喚起や、基礎スキルを学べる講座を実施
 (アニメクリエイター講演会、アニメ制作体験講座、デジタルクリエイター育成講座)

⇒ 企業の立地先選定において、現地での優秀な人材の確保は重要なポイントだが、現状県内にはアニメクリエイターに必要な専門スキルを身に付けられる専門学校がないため、**専門スキルを習得できる環境の整備が必要** **課題①**

3 企業誘致

アニメ関連企業の立地実績：6社 (R5年12月末時点)

⇒ アニメ産業の集積にむけて、**アニメ制作企業の誘致に向けた立地支援の強化が必要** **課題②**

4 アニメツーリズムの促進

フィルムコミッションによるロケ支援等

5期計画(令和9年度)の目指す姿

目標値

県内におけるアニメ制作企業従事者数

出発点 (R4) 28人 ⇒ 4年後 (R9) 120人

- 1 アニメ関連企業の誘致を進めることで、**若者や女性、UIターン者の受け皿となる雇用を創出**
- 2 県内でアニメクリエイターの専門スキルを習得できる環境を整備し、**優秀な人材を輩出していくことで、さらなる企業誘致の促進につなげる**



令和6年度の取り組み

高知アニメクリエイター聖地プロジェクト

アニメ業界の注目を本県に集める取組

【アニメクリエイターの交流促進・アニメ関連企業の拠点整備】

イベント等の開催や、アニメクリエイターの育成・発掘・交流の支援、アニメ関連企業の拠点の創出等

【6つの開発目標】

- ①高知アニメクリエイター祭
- ②高知アニメクリエイターアワード
- ③アニメ会議
- ④高知デジタルクリエイティブラボ
- ⑤高知デジタルクリエイティブスペース
- ⑥アニメクリエイター"プレミアム"計画

相互に連携

県の取組

人材育成や企業誘致等、本県にアニメ産業を根付かせる取組

1 推進体制

高知県
アニメプロジェクト
推進会議

〔 産業界
高等教育機関
金融機関
報道機関
行政機関 〕

2 気運醸成

- (1)プロジェクトの情報発信
- (2)県内での気運醸成に向け、県の広報等においてアニメ活用を促進

県内の若者の関心の高まり

アニメ関連企業の関心の高まり

アニメファン
関心の高まり

3 人材育成

【中長期的な人材供給】

(1)県内の若者に、アニメクリエイターの仕事内容や魅力を伝え、将来の仕事として興味喚起を行う**講演会**や**アニメ制作体験講座**を開催

【即戦力の養成】

新 (2)アニメクリエイターに必要な専門スキルの習得を目的として、県内の専門学校が実施する**教育プログラムへの支援制度を新設** **強化①**

4 企業誘致

【高知の強みを活かした誘致活動】

(1)HPやパンフレット等を活用したアニメ制作企業に対する本県の魅力や支援制度の情報発信、フォローアップ
新 (2)既存のIT・コンテンツ企業に対する補助制度を刷新し、**アニメ制作企業の誘致に特化した補助制度を新設** **強化②**

5 アニメツーリズムの促進

フィルムコミッションによるロケ支援 等

No.	目標	出発点	直近値	4年後 目標 (R9)	これまでの取り組みと成果	課題	取り組み内容 (R6～R9)
1	グリーンLPガスの材料となるバイオマス資源(木質系、マリン系、農業残渣、ペーパーラッジ等)の供給システムの構築	-	-	-	<ol style="list-style-type: none"> 木質バイオマス <ul style="list-style-type: none"> 森林組合連合会へのヒアリング実施 未利用材、業界の現状について聞き取りを実施 マリンバイオマス <ul style="list-style-type: none"> 高知大学農林海洋科学部へのヒアリング実施 水産業振興課との協議を実施 農業残渣 <ul style="list-style-type: none"> 農業技術センター、農業振興センターとの協議を実施 ペーパーラッジ <ul style="list-style-type: none"> 紙産業技術センターとの協議を実施 企業へのヒアリングを実施 セミナーの開催 <ul style="list-style-type: none"> グリーンLPガスの基礎知識についてのセミナーを開催 高知県グリーンLPガスプロジェクト推進会議の設立(令和6年3月末時点会員数36者) <ul style="list-style-type: none"> 県がグリーンLPガスに取り組もうとしていることについての県内関係者への認知は広まりつつある 	<ol style="list-style-type: none"> グリーンLPガスを生む触媒の開発にはまだ時間を要するため、現状では、事業化に向けた製造や普及に対する具体的な体制を構築することは困難 原材料となる資源の賦存量の把握が必要 原材料ごとの収集方法や前処理方法、実施体制をこれから明らかにすることが必要 事業化に際し、本県の優位性を確保できる項目の検討が必要 	<ol style="list-style-type: none"> 関係者へのヒアリング実施 <ul style="list-style-type: none"> 状況把握や情報収集のため、適切な事業者や学術機関などへ機宜を得たヒアリングを実施 資源量調査等 <ul style="list-style-type: none"> 県内における様々なバイオマスの賦存量や調達の可能性などを把握するための調査を実施 資源の収集方法や前処理方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> 庁内外の事業者及び関係機関と連携し、バイオマス資源に応じた収集方法や前処理方法について具体的に検討 実証フィールドの確保 <ul style="list-style-type: none"> 令和10年度からの実証実験の実施を目指し、実施主体や実施場所等の確保に向けた検討を実施
2	グリーンLPガスの生産に向けた県内事業者の育成又は誘致	-	-	-	<ol style="list-style-type: none"> 参画可能性の検討 <ul style="list-style-type: none"> 高知大学農林海洋科学部、理工学部へのヒアリング実施。資源調達からガス製造、販売の流れの中で、県内事業者が取り組める可能性がある項目について協議 早稲田大学関根教授(高知県グリーンLPガスプロジェクト推進会議 会長)に、研究進捗を確認 	<ol style="list-style-type: none"> 県内事業者の参画拡大 <ul style="list-style-type: none"> パンフレット(R5年度に作成する基本構想の概要パンフレット)の活用やセミナー開催等を通してグリーンLPガスプロジェクト推進会議の会員数を拡大 事業者の確保 <ul style="list-style-type: none"> 触媒の研究が進む中で今後順次明らかになる製造の各工程において求められる技術等を踏まえ、令和10年度から予定している実証実験に参画する事業者を掘り起こし 	
3	高知県産グリーンLPガス販売事業者の確保	-	-	-	<ol style="list-style-type: none"> 販売体制の把握 <ul style="list-style-type: none"> 高知県LPガス協会へのヒアリングを実施 商慣行や、業界の現状について聞き取り 東京にて全国大手元売事業者へのヒアリングを実施し、グリーンLPガス製造に関する意向を確認 	<ol style="list-style-type: none"> 県内販売事業者との連携 <ul style="list-style-type: none"> 高知県LPガス協会と連携し、県内事業者の現状把握を引き続き実施 グリーンLPガス推進官民検討会議(日本LPガス協会等)との連携 <ul style="list-style-type: none"> 大手ガス会社などが参加する「グリーンLPガス官民検討会議」にオブザーバーとして参画し、グリーンLPガスに関する製造技術開発や品質基準、社会実装に向けたロードマップづくりなどの状況把握に務めるとともに、販売事業者等との連携を促進 	
4	バイオマス資源(木質系、マリン系、農業残渣、ペーパーラッジ等)からグリーンLPガスを生成するための新触媒の開発	-	-	-	<ol style="list-style-type: none"> 本体研究の内、水熱処理分野を主として担う、高知大学農林海洋科学部、理工学部へのヒアリングを実施 <ul style="list-style-type: none"> 現状の研究進捗を確認 早稲田大学関根教授(高知県グリーンLPガスプロジェクト推進会議 会長)に、研究進捗を確認 	<ol style="list-style-type: none"> 技術開発(早稲田大学等) <ul style="list-style-type: none"> 令和10年度の技術実証を目指し、ラポレベルでの研究を継続(R4年度～(環境省プロジェクト)) 新たな触媒、水熱処理技術の開発等 進捗状況の把握 <ul style="list-style-type: none"> 令和10年度からの実証実験の開始を目指し、定期的に関根教授(高知県グリーンLPガスプロジェクト推進会議 会長)に、研究進捗を確認 	

現状・課題

(1) 新たな触媒開発・実証実験に向けて

- ① 原材料の確保
⇒ガス生産に有用なバイオマスの種類及び資源量が現時点では未確定
⇒触媒開発の進展に応じ、速やかに事業化の検討が行えるよう、原材料となりうる資源の賦存量の把握が必要
- ② 事業化に向けた体制構築
⇒触媒開発の状況を踏まえ、体制構築を行っていくことが必要
- ③ 事業化のアドバンテージの創出
⇒グリーンLPガス製造過程において本県の優位性を確保できる項目の検討が必要

(2) 参画事業者の掘り起こし

- ① 高知県グリーンLPガスプロジェクト推進会議の設立(令和4年5月)
⇒触媒開発がこれからのため、事業化を見据えた参画希望者が少ない
(会員数36者[令和6年3月末時点])
- ② 生産に向けた県内事業者の育成・誘致
⇒ガス製造の前工程処理方法等が確定していないため、まだ育成・誘致段階に至っていない

5期計画（令和9年度）の目指す姿

高知県の様々なバイオマス資源（木質系、マリン系、農業残渣、ペーパースラッジ等）を活用した、グリーンLPガスの地産地消モデルの確立に向け、資源量の把握や実施事業者の掘り起こし等に取り組み、令和10年度から予定されている実証実験の支援体制を構築する。

令和6年度の取り組み

(1) 基礎調査の実施

- ・県内のバイオマス資源に関する調査の実施

(2) 事業化に向けた環境整備

- ・実施事業者の掘り起こし

(3) 生産体制の深化と仲間づくり

- ・県内企業における分業・生産体制の検討・構築
- ・高知県グリーンLPガスプロジェクト推進会議の会員拡大

【構想スケジュール】

